

ブログで、いつも同窓会

第 46 期 吉田真由美

今年 (2006 年) の 2 月 4 日に開かれた東京同窓会常任幹事会で、「もっと若い人や女性たちに同窓会活動に参加してもらいたい。そのためにはどうしたらよいか」ということが話題になりました。その場で広報委員会の若いメンバー福本円さん (63 期) から、インターネット上でブログ (日記形式のホームページ) を開設してはどうかという提案があり、「よさそうなことは、なんでもやってみよう」と、すぐに承認されました (もっとも、「ブログってなんだべ?」と思っていた幹事さんも多かったようですが)。

さっそくその日のうちに、福本さんが東京同窓会のブログを立ち上げました。タイトルは「いつかの同窓会」。とりあえず女性を中心に、何人か共同で記事を書き込もうということになりました。今までのところ記事を書いているのは、淡路和子さん (55 期)、大塚聡子さん (49 期)、三浦洋さん (45 期)、それに福本さんと私の 5 人で、週に 2 回くらいのペースで更新しています。

初めのうちは同窓会に関する情報を流そうと考えたのですが、すぐにタネがつきてしまいます。第一、もともと同窓会に興味のない人には読んでもらえそうにありません。そこで、能代山本の話題をとりあげたり、自分の思い出を書いてみたり、同窓生のみなさんが楽しく読める記事にしようと、それぞれが工夫してきました。

ブログは、読んだ人が意見や感想を、コメントとして書き込めるのが特長です。自分の書いた記事に反応があるとうれしく、励みになります。コメントに返事をすることもできますし、そこから新しい話題が広がっていくこともあります。

コメントは、最初は内輪の人ばかりでしたが、東京同窓会のホームページや能代関係のブログのリンクからたどってくる人もふえ、秋田県内や福岡に住む同窓生からも書き込まれるようになりました。本名ではなくハンド

ルネームを使っているのが本当のところはわかりませんが、女性も多いようです。年齢層もかなり幅広く、「この春に卒業したばかりです」という書き込みがあったときには、関係者みんな大喜びでした。

ブログを始めてから半年たち、記事を書いたり、コメントが返ってきたりするなかで、おもしろいと感じることがありました。能代高校の同窓生といっても、思い浮かべる母校の姿は、それぞれに違うということです。樽子山の木造校舎の人もいれば、高埜の校舎の人もいます。校名の呼び方も「のうちゅう」「なんこう」「みなみ」「のうこう」「のしこう」といろいろであることを、ブログで初めて知りました。女子生徒の比率も 1 割くらいから半分近くまで、年代によってかなり違います。

それでも、「能代高校」という一点でつながっていて、「私たちのころはこうだった」「こんなふうに変ったなんてびっくり」という会話が、旧知のように世代を越えてできるのは、考えてみれば不思議です。そんなところも、「インターネット同窓会」の妙味かもしれません。

このブログの試みが東京同窓会参加者の増加に結びつくのかどうか、正直いってまだわかりません。ただ、それはそれとして、このブログ自体、同窓生の新しい交流の場として続けていく価値があるのではないかと、最近はそのことを考えています。

(<http://blog.goo.ne.jp/itsuka-dousou/>)

さきがけ新聞に紹介される

(2006 年 6 月 11 日「東京ふりーぱす」より抜粋)
「県内高校の東京同窓会 独自 HP 開設が浸透 会員獲得目指して活用」

首都圏在住の県内高校卒業生でつくる各高校の東京同窓会。年 1 回の総会や会報発行などの活動に加え、新たにインターネット上で独自のホームページ (HP) を開設する動きが浸透してきている。会員への連絡インタビューの掲載やブログの開設など趣向を凝らした内容が目立つ。会員の高齢化が進む中、新たな若手会員獲得に向けた有効な手段として活用されているようだ。各校の東京同窓会で組織する在京秋田県高等学校同窓会連合会の構成団体は、現在 47 団体。友成穂秀会長は「このうち、3 分の 1 程度は HP を開設した